

# 番組審議会

## 第641回

開催日 令和2年9月14日(月)

### ■委員の出席

委員総数 10名

出席委員数 10名

### 出席者

委員長 音 好 宏

副委員長 中 江 有 里

委 員 江 澤 佐知子 尾 縣 貢

萱 野 稔 人 喜田村 洋 一

佐 藤 智 恵 長 嶋 有

藤 原 帰 一 水無田 気 流

TBSテレビ 佐々木 社 長

渡 辺 常務取締役

伊佐野 常務取締役

岩 田 取締役

瀬戸口 編成局長

竹 内 報道局長

阿 隅 報道局報道番組部長

堤 制作プロデューサー

金 富 番組プロデューサー

中 山 編成考査局長

鈴 木 編成考査局視聴者サービス部長

岩 村 番組審議会事務局長

## ■議事概要

### (1) 審議事項

1) 「終戦75年スペシャル第一部 女性たちの8・15」

8月15日(土)放送

2) その他

### (2) 報告事項

1) 「クレイジージャーニー」に関するBPOの意見について

2) 2020年度下期の編成方針

### (3) 事務局報告事項

1) 視聴者からの声について

2) 次回審議会の議題及び日程について

### 【委員の主な意見】

(「終戦75年スペシャル第一部 女性たちの8・15」について)

- 毎年夏になると各局が戦争番組を放送するが、女性の視点から戦争を描いたものは少なく、そうした中でこういう番組を放送したことには、大きな社会的意義がある。特にコロナ禍の中、リスクの高い高齢者を対象とした番組制作を、慎重を期しつつ行ったスタッフには敬意を表する。
- 80～90代の証人の方々が、しっかりした口調で、聞き手にも情景が浮かぶような自分の言葉で語られていた。とにかくこれを話したいという強い意志が感じられ、さらにその表情、特に目が複雑な思いを表現しており、そこにテレビならではの強みを感じた。
- 番組を見て強く思ったのは教育の重要さであり、違う表現をすると、洗脳の手段としての教育の持つ怖さである。国のために死ぬことは名誉であると刷りこんでいく教育を心から怖いと感じた。
- 特攻後続隊に志願した女性や、軍国少女の実態、国防婦人会の女性たちの紹介などは、国民が一方的な被害者ではないことを表現している。国民はずっ

と被害者で、軍国主義に巻き込まれて国にだまされたという話だけでは、戦争の実態を押さえることはできない。いかに国民が熱狂して、全員ではもちろんないが、戦争を支持、推進して、能動的に参加したという部分が示されている点がよかった。

- 高校生に意見を求める場面は、いささか予定調和に見えてしまったのではないか。若者が意見を求められた時、実際には大人から意見を押し付けられていて、それに合わせて喋るという局面はよくある。今回の高校生たちは、そうではなく、もちろん真剣に考えて発言してくれていることが伝わるが、これを見た若い人たちが、ああ、いつものあれだなと思ってしまうことを懸念する。その点をもっと工夫すべきではなかったか。
- 戦争について語るとき、戦争を教える側がどうしても「君たちは知らないだろうが」といったマウンティングを取りがちだが、関口さんのソフトタッチな話の向け方が、そうなることを防いでいてとてもよかった。
- 内容というよりも、構図だけ見ると、取材対象も、話を聞くのも、アシスタントも女性でメインが男性二人。ある意味では男性が女性の生き方について「大変だったね」と観察者的に見ている感があると言われなくもないのではないか。

\* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。 (TBSテレビ番組審議会事務局)